



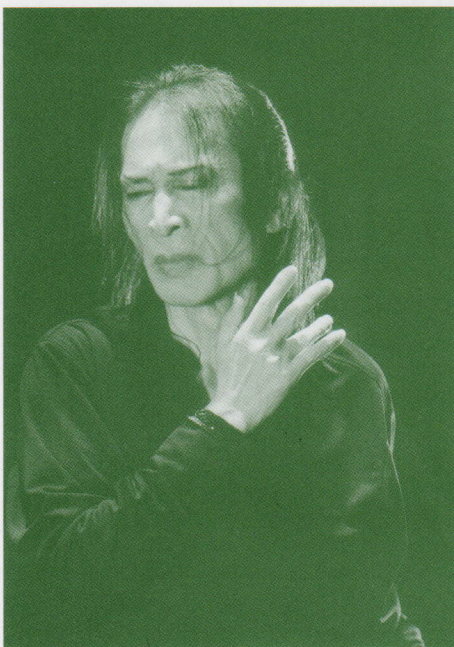
平成21年度芸術創造活動重点支援事業

小島章司フラメンコ2009
ラ・セレスティーナ
**LA
CELESTINA**

～三人のパブロ～

Q_L テアトル銀座
by PARCO

2009年11月27日(金) 7:00PM 11月28日(土) 3:00PM/7:00PM 11月29日(日) 3:00PM



小島章司

いつかピカソに取り組みたい——私は長年、夢を抱き続けてきました。今年の秋に古希を迎えるにあたり、ようやくその夢が実現します。

昨年国立新美術館とサントリー美術館で「巨匠ピカソ愛と創造の軌跡／魂のポートレート」展が開催され、パリのルーヴル美術館とオルセー美術館、グラン・パレでもピカソ回顧展が開かれ、今年ロンドンのナショナル・ギャラリーでもピカソ回顧展が催されました。イタリア・ルネサンスやオランダ絵画で有名なナショナル・ギャラリーが二十世紀の画家にスポットライトを当てるのは初めて。「二十世紀とはどんな時代だったのか」をピカソを通して検証する試みが、今、世界各地で行われています。

カザルス、ピカソ、ネルーダは奇しくも同じ1973年に他界しました。

私は修行中のスペインで訃報に接し、二十世紀の音楽・絵画・詩の巨人が相次いでこの世を去ったことに衝撃を受けました。以来、彼らの喪失は大きな空白として今も心に残り続けています。

別の意味でもこの年はエポックメイキングな年でした。

当時の皇太子・美智子妃両殿下がスペインをご訪問し、私はスペイン国主催による歓迎式典に招かれ、セビーリヤ城(アルカーサル)で踊りを披露する榮譽を受けました。

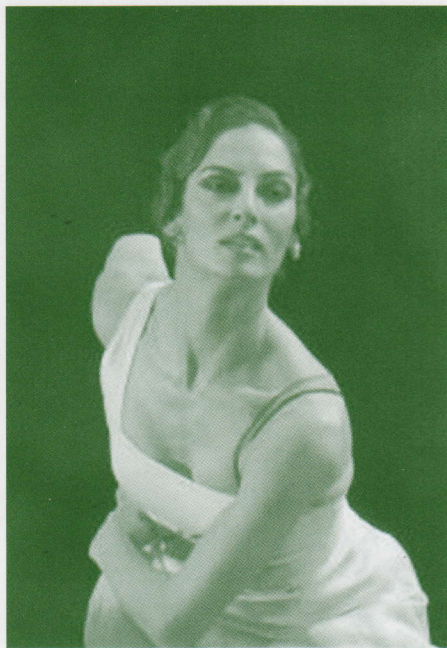
2008年秋、スペインのファン・カルロス一世国王とソフィア王妃が国賓として来日し、天皇皇后両陛下主催による宮中晩餐会とスペイン大使館による答礼会に招かれ、35年ぶりの再会を果たしました。

畏敬してやまない三人のパブロの喪失、そして当時の王子ご夫妻と皇太子ご夫妻に踊りを披露した輝かしい思い出——「1973年」は忘れ得ぬ年となったのです。

小島章司



クリスティアン・ロサーノ



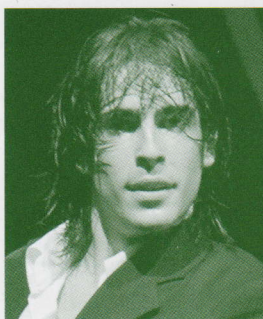
タマラ・ロベス

■ ピカソ、ネルーダ、カザルスで描く『ラ・セレスティーナ』の世界

画家パブロ・ピカソ(1881-1973)、チリの詩人パブロ・ネルーダ(1904-1973)、チェロ奏者パウ(パブロ)・カザルス(1876-1973)。絵画、詩、音楽の巨人である彼らはファーストネームがパブロであることからスペイン語圏では「三人のパブロ」と称されます。『ラ・セレスティーナ～三人のパブロ～』は、これら不世出の芸術家三人にオマージュを捧げる舞台です。

7万点にも及ぶピカソの画業の中から小島がインスピレーションを得たのは、愛し合う者同士がお互いをむさぼり合い一体化するかのような烈しい筆致の『接吻』(1969年)と『抱擁』(1970年)。そして15世紀末の小説『ラ・セレスティーナ』をモチーフにした一連の版画です。

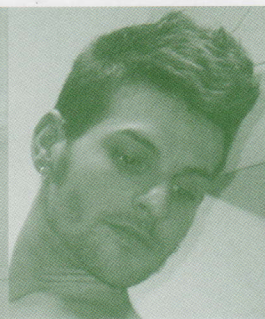
チリ生まれの詩人パブロ・ネルーダの代表作は初期の詩集『二十の愛の詩と一つの絶望の歌』。今もおスペイン語圏で広く愛されている詩人です。「一つの絶望の歌」の世界感は『ラ・セレスティーナ』の悲劇と響き合うものです。



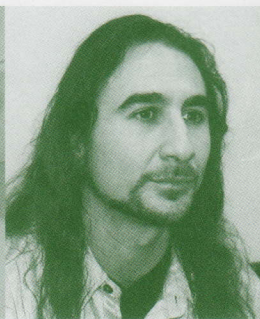
パブロ・フライレ



フランシスコ・モルガード



アンヘル・サンチェス・ファリーニャ



サルバ・デ・マリア



オルビード・ランサ



リト・イグレシアス



岡野千春



前田可奈子



柳谷歩美



関晴光



松田知也



鎌田里代



木内恵津子

木下環

パウ(パブロ)・カザルスは2005年の公演『鳥の歌 A PAU CASALS』で既にオマージュを捧げました。今回は若い貴族の青年と富裕な家柄に生まれた娘の愛を、カザルスが発掘したバッハの『無伴奏チェロ組曲』を使って謳い上げます。

聖と俗、具象と抽象、その両方を包み込むピカソの巨大な世界。カザルスの妙なる調べ。ネルーダの繊細な詩情。これらを一つの作品に紡ぐ題材として今回選んだのが『ラ・セレスティーナ』です。『ラ・セレスティーナ』はくスペイン版ロミオとジュリエット』と言える戯曲風の小説で、たちまちヨーロッパ各国で翻訳され、後代のリアリズム描写に大きな影響を与えました。主人公セレスティーナは売春宿を営む奸智に長けた老婆で、若い恋人の仲を取り持ちます。スペイン文学史上最初の巨大な悲喜劇的作品の中のタトル・ロールになっている人物です。

■『ラ・セレスティーナ』

——スペイン版ロミオとジュリエット

〈あらすじ〉

貴族の青年カリストが鷹狩りの最中、とある庭園に迷い込み、美しい娘メリペーアに一目惚れする。すげなくふられてしまったカリストは召使い二人の勧めで、取持ちの老婆セレスティーナに相談する。奸智に長けたセレスティーナは弁舌巧みにメリペーアを説得、メリペーアの心のカリストへの激しい情熱が生まれ、若い二人は熱烈な恋人になる。セレスティーナは仲介の報酬としてカリストから金の鎖をもらう。欲に目がくらんだ召使い二人はセレスティーナを殺す。セレスティーナの下働きたちはカリストへの復讐を誓う。メリペーア宅の庭園で逢瀬を楽しんでいたカリストは街路で物音を聞きつけ、確かめようとして梯子から足を踏み外し、転落死する。悲嘆に暮れたメリペーアは塔から身を投げ後を追う。

〈解説〉

『ドン・キホーテ』のセルバンテス、戯曲家ロペ・デ・ベカ、カルデロン、詩人ゴンゴラ、画家ベラスケス——16世紀から17世紀にかけて、スペインは文芸・芸術の巨人を次々と輩出しました。『黄金世紀』と呼ばれるこの時代のさきがけの一つとなったのが悲喜劇の小説『ラ・セレスティーナ』(1499年)です。

戯曲形式で書かれたこの小説は、当初は『カリストとメリペーアの悲喜劇』というタイトルでした。しかし主人公の青年と娘の仲を取り持つ老婆セレスティーナの造形が傑出し、その存在感が圧倒的なため、現在のスペイン文学史上では『ラ・セレスティーナ』というタイトルで知られています。スペイン版ロミオとジュリエットといえる作品です。

〔スペインの至宝ハビエル・ラトローレの演出、堀越千秋の美術〕

構成・振付はスペイン・フラメンコ界の奇才ハビエル・ラトローレ氏。小島章司フラメンコ舞踊団との関わりでは2007年の公演『戦下の詩人たち(愛と死のはざままで)』の構成・振付を担当。天皇皇后両陛下のご高覧を賜り、作品は第39回舞踊批評家協会賞を受賞しました。

美術は堀越千秋氏。堀越氏は高評を博した『戦下の詩人たち』『越境者』(2008年)に続いて3年連続の参加です。



ハビエル・ラトローレ

〔豪華な出演者、作曲と音楽監督を担うチクエロ〕

出演は小島章司と小島章司フラメンコ舞踊団の他、元スペイン国立バレエ団のプリンシパル、数々の名舞台に出演しているクリスティアン・ロサーノと、同バレエ団のソリスト、タマラ・ロペスが悲恋の主人公を演じます。さらに踊り盛りの男性舞踊手パブロ・フライレ、フランシスコ・モルガード、アンヘル・サンチェス・ファリーニャをスペインから招聘致します。



チクエロ

舞踊団のメンバーも成長著しく、岡野千春、前田可奈子、柳谷歩美、関晴光、松田知也を中心とした舞踊団に、各雑誌から高い評価を頂戴しております。特に『戦下の詩人たち(愛と死のはざままで)』の糸乱れぬ群舞の数々は日本の舞踊史に名を残すものと絶賛されました。

音楽監督は1993年以来務めているチクエロがオリジナル曲を作曲・演奏。同じく常連のサルバ・デ・マリアが彼を支えます。歌手は近年の公演に欠かせないエル・ロンドロを筆頭に、『戦下の詩人たち』に次いで二度目の魅惑の声ペドロ・オブレゴン、そして新進気鋭の女性歌手、カリダー・ベガが初来日致します。ヴァイオリンのオルビード・ランサ、チェロのリト・イグレシアスの弦楽器の崇高な響きとパーカッションのペドロ・マヌエル・ナバーロの儀式めいたリズム、それらの音楽世界が深い物語性を高めるものと確信しています。

CAST

〔バイレ〕

小島章司

クリスティアン・ロサーノ

タマラ・ロペス

パブロ・フライレ

フランシスコ・モルガード

アンヘル・サンチェス・ファリーニャ

〈小島章司フラメンコ舞踊団〉

岡野千春／前田可奈子／柳谷歩美

関晴光／松田知也

鎌田里代／木内恵津子／木下環

小島有美子／齋藤洋子／畑もえ祈

大林綾子／久保田晴菜／関弥生

竹内純子／津守このみ／濱本充子

〔カンテ〕

エル・ロンドロ／ペドロ・オブレゴン

カリダー・ベガ

〔ギター〕

チクエロ／サルバ・デ・マリア

〔ヴァイオリン〕

オルビード・ランサ

〔チェロ〕

リト・イグレシアス

〔パーカッション〕

ペドロ・マヌエル・ナバーロ・グリマルディ

※やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がありますので、予めご了承ください。

STAFF

原案：小島章司

演出・振付：ハビエル・ラトローレ

作曲：チクエロ

美術：堀越千秋

バレエマスター：クリスティアン・ロサーノ

ダンスミストレス：柳谷歩美／前田可奈子

岡野千春

衣裳：山田尚希(エイム)

立川広子(ナジャハウス)

照明：大島祐夫(A・S・G)

音響：田中賢(サウンドクラフト ライブデザイン)

舞台監督：舛田勝敏(ダイレクト)

ヘアメイク：佐々木純子

宣伝美術：宇野亜喜良

宣伝写真：山廣康夫

翻訳・制作協力：古屋雄一郎

企画・制作：株式会社エスタジオ コジマ

〔入場料金〕

全席指定・プログラム付

S席10,000円／A席8,000円

ボックス席(2名)20,000円

〔お申し込み・お問い合わせ〕

小島章司公演事務局

TEL:03-3498-0923/FAX:03-3498-5442

チケットぴあ

TEL:0570-02-9999/0570-02-9988(オペレータ対応)

〒104-0061 東京都中央区銀座1-11-2(代) 3535-5151

JR 有楽町駅(徒歩8分) 地下鉄 有楽町線「京橋駅」2番出口(徒歩1分)
有楽町線「銀座一丁目駅」7番出口(徒歩1分)
東京駅(徒歩10分) 都営線「宝町駅」A-4番出口(徒歩4分)



ペドロ・マヌエル・ナバーロ・グリマルディ



エル・ロンドロ



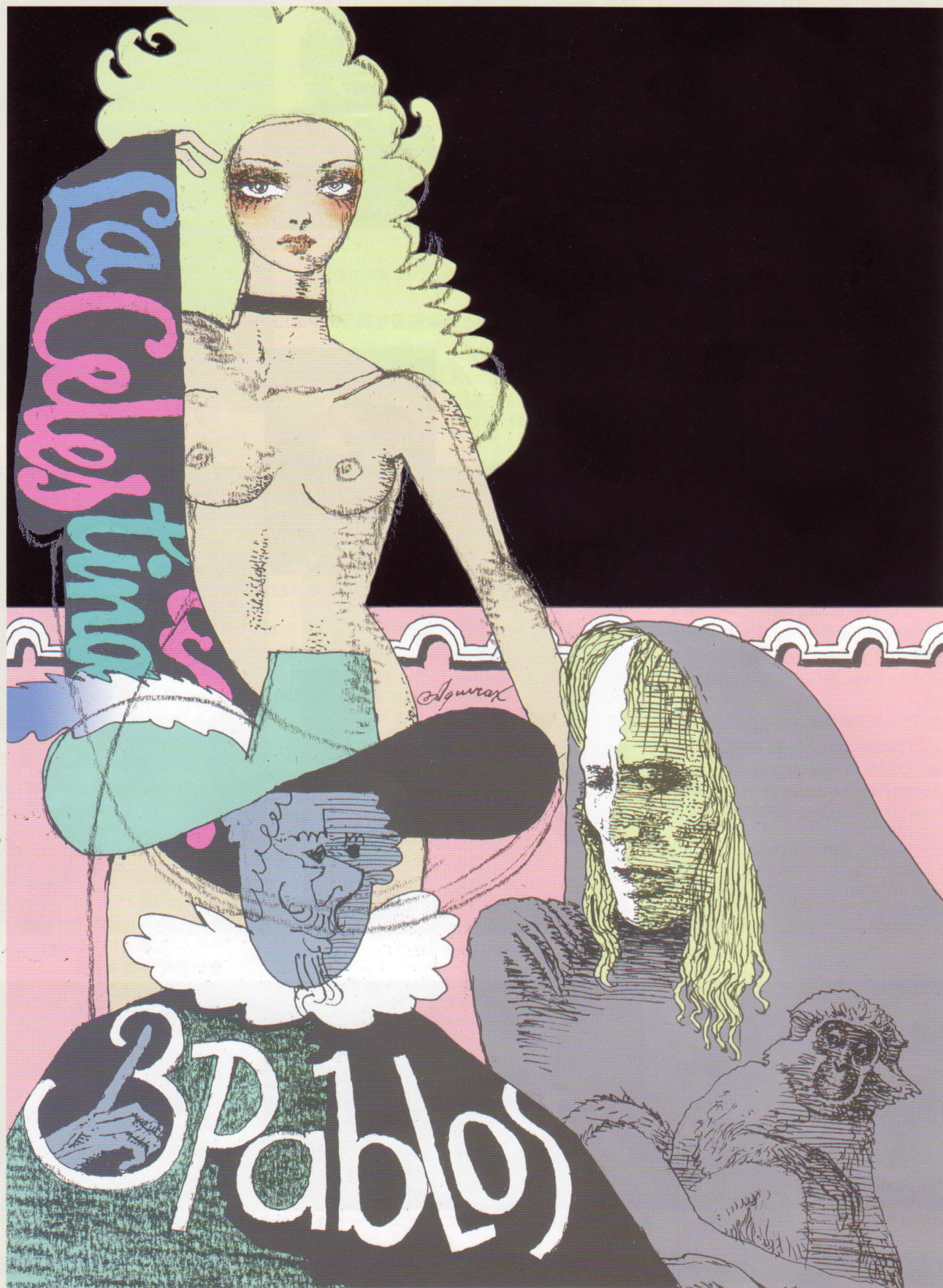
ペドロ・オブレゴン



カリダー・ベガ






小島有美子 齋藤洋子 畑もえ祈 大林綾子 久保田晴菜 関弥生 竹内純子 津守このみ 濱本充子



〔お申し込み・お問い合わせ〕

小島章司公演事務局 TEL:03-3498-0923 / FAX:03-3498-5442 チケットぴあ TEL:0570-02-9999 / 0570-02-9988 (オペレータ対応)

主催=小島章司フラメンコ舞踊団

後援=  スペイン大使館 /  (財)日本スペイン協会 /  (社)現代舞踊協会 / 日本フラメンコ協会